

2012年(平成24年)3月25日(日曜日)

# 中海は宝物

## 未来守りネットワーク活動記

1年間の長きにわたり、連載させていただき、誠にありがとうございました。私たちの活動には、地域住民の皆さんの理解や各行政機関の協力がなくしてできない事業が数多くあります。

再生、保護、リサイクルという言葉には美しい響きがありますが、皆さんの理解を得るまでは、努力と忍耐そして行動力が必要です。「言うは易く行うは難し」のごとき通り、再生事業などには、計画、説明、理解、行動、結果そして継続が必要です。

## 再生への誓い

時には私自身、環境再生は無理ではないかと挫折しそうになります。そんな私を支え、力になってくれるのが、未来守りネットワークの多くの仲間や子どもたちの、中海を再生させようとする信念と笑顔です。

中海のアマモ・コアマモ場再生や絶滅危惧種の保護事業など、人とのつながりを大切にすることで「自然との共存共栄」が図れると

## 今後も息の長い活動を

思うようになりませんでした。環境を壊したのが人間であるのも人間です。でも、再び、こんな所は国内でも数

アマモ場再生事業の参加者全員でガッツポーズ。未来守りネットワークは息の長い活動を目指す



生には壊した年月 少ないと思います。の何十倍の時間と 中海は、時代の流れに翻努力が必要なこと 弄(ほんろう)され、私たを忘れてはいけません。最後が良い報告をしたい

かつて中海は、水産資源が現在の価格で50億円以上あったといわれています。未来守りネットワークの調査では赤貝、アサリ、アオデガニ、ゴズなどの魚介類が少しずつ増えています。この地域に暮らす私たちが、自然豊かで水がおいしいのは当然です。

向井哲朗先生(米子市・彦名チビッツ環境パトロール隊長)が提唱しているように、残ったしゅうゆを紙でふき取るだけでも水質浄化につながります。あな

たの少しの努力で、中海は変えられることを忘れないでください。昨年11月に安来市と島田地区中海流出水対策協議会の皆さんとアマモ・コアマモ移植事業を行いました。条件的に非常に厳しかったのですが、国土交通省出雲河川事務所と中海出張所の協力もあり、3月14日の調査で数多くの発芽が確認できました。未来守りネットワークは、中海再生を成し遂げるため、NPO法人自然再生センターを含め多くの関連団体と提携し、今後も息の長い活動をしてまいります。

(未来守りネットワーク 理事長・奥森隆夫)

〓おわり〓